

重誓寺真宗関係史料 一括(2点)

重誓寺真宗関係史料

じゅうせいじしんしゅうかんけいしりょう

絹本著色方便法身阿弥陀如来画像 1 幅、紙本墨書重誓寺縁起 1 巻

分野／部門

有形文化財／歴史資料

所有者

宗教法人 重誓寺(じゅうせいじ)

所在地

大阪市旭区中宮 2

紹介



本願寺教団は 8 世門主蓮如(れんによ)の時代に摂津・河内地域に教化を広げ、後の大坂本願寺となる大坂御坊を開いた。

その後を継いだ 9 世実如(じつによ)の時代である 16 世紀前半は、在地に勢力が浸透し、拠点となる惣道場が次々に開かれた時代である。本願寺教団は惣道場に、本尊となる画像や名号を下付(かふ)した。

重誓寺に伝来する方便法身阿弥陀如来画像(ほうべんほっしんあみだによらいがぞう)は、そのような事例が在地に伝来した希少な事例である。裏書から永正年間(1504～21)に実如が下付した本尊であることが分かる。

中世の市域東北部を指す呼称である「榎並」(えなみ)の文字が宛所に残る。

在地の歴史資料で中世にさかのぼるものは市内では非常に少なく、貴重な資料である。